

藤沢サンクチュアリ令和2年度上半期活動報告

今年度の作業予定

樹木伐倒 倒木処理

林床の草刈り(ササ)

竹の伐採

竹の処理

樹木伐倒 倒木処理 現在予定のほぼ半分完了

主にスギヒノキ、照葉樹を伐倒し、キヅタなどの伐採を行った。これにより、里山環境を蘇らせる作業を進めています。特にスギは枯れ葉が林床を埋め尽くすと下草が押さえられる為、積極的に切っていますが、オオタカの営巣木となるので、太いスギは残し、周りのスギを切って枝を張らせるように心掛けています。長年放置していた為多くの木にキヅタがからまり、木の成長を抑えてしまうので伐採を行っています。照葉樹林を伐倒することで明るい林を再生し、下草の生える環境を再生している。

結果としてキンラン、ギンランなどの株が年々増えている。



林床の草刈り(ササ)

現在予定の60%完了

主にササを刈って明るくなった林床にキンラン、ギンラン、ヒトリシズカなどの里山を象徴するような植物を再生する為に草刈りを行っています。特にササの勢いを止めることと、キツネノカミソリ等の夏咲く植物を再生する為、初夏と初秋に区域を分けて刈り払い機で草刈りを行っている。また写真のようにムラサキシキブなどの低木はきれいな木の実を付けるので、将来ここを散策するヒトの目を楽しませることと、越冬する野鳥のエサになるようにわざと刈らずに残しています。



竹の伐採

現在予定の90%完了

以前は竹が倒れたり、密になって暗かった竹林を適度に間引いて、健康の森にふさわしい、間隔が適度に空いて、見るからに気持ちのいい竹林をめざしています。また竹の伐採は作業的にも危険が少なく、中高生の社会体験やボランティア活動として適しているので、竹の伐採活動を通じた自然とのふれあい活動として有効である。



県立高校5年次社会体験研修で竹林整備事業に参加した高校教員

竹の細断 現在予定の50%完了

伐採した竹を積み上げて整理したが、積み上げた山が増え竹林内を占有してしまうので、チップパーによる細断処理を行っている。処理したチップはそのまま野積みになっているが、カブトムシの繁殖に適している為、毎年チップの山からかなりの数のカブトムシの幼虫を確認している。



今後の課題

伐倒した木が増え、林床を覆い始めているので、草の生える部分が狭められている。伐採した木の枝をチップパーで処理しているが、委託業務として見積もりしてほしい。今年急にナラ枯れ病が増加した。